



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】 質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO.12 R5.09.19

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

手を上げると車は止まる？ —三重の高校生が検証・教則 43 年ぶり復活—

信号機のない横断歩道で手を上げると、車は止まってくれるか——。

「手を上げて横断歩道を渡りましょう」という交通標語。皆さんは知っていますか。実はこの横断方法 1978 年に『交通安全の教則』（警察庁作成）から削られたそうです。

これに関連して、少し前の話ですが、車の一時停止率ワーストを記録した三重県の高校生が「手上げ横断」の効果を検証する実験を行いました。（2021/10/05 日経新聞）結果は「棒立ちしている場合に比べ手を上げた方が車は止まる」。まあ、仮説どおりの結果かも知れませんが、実際にやってみるところがスバラシイ。

実験を行ったのは、三重県立神戸高（鈴鹿市）の 3 年生 6 人。自ら課題を見つけ解決策を提案する探究活動に取り組んでいたある生徒さんが、日本自動車連盟（JAF）の調査で 2019 年に三重県の一時的停止率が全国ワーストの 3.4% になったとの報道を目にし、「自分たちに何かできることはないか」と実験を思い付いたとのこと。



信号機のない横断歩道での実験風景（日経新聞）

メンバーの皆さんは人や車の往来が多い夕方時間帯に市内 2 カ所で、手を上げた場合と棒立ちの場合、スマートフォンを見ていた場合の 3 パターンで、通行した台数のうち止まってくれた車の数を数え、停止率を算出しました。

結果は、手上げ横断が 65% だったのに対し、棒立ちは 36%、スマホを見ていた場合は 16% と大幅に低下。「手を上げれば歩行者の意思が明確に伝わる」と結論付けました。

佐藤さんらは「一時停止はルール。本当は棒立ちしていても止まってほしい」とした上で「手を上げるだけでこんなに変わるなら絶対やった方がいい。もっと多くの人に手上げ横断を知ってほしい」とまとめました。

本来、横断歩道を渡ろうとする歩行者がいる場合、車は一時停車することが義務付けられています。実態はひどいものです。この高校生の取組が奏功したかはさだかではありませんが、その後前述の『教則』には 43 年ぶりに「手上げ横断」が盛り込まれたようです。

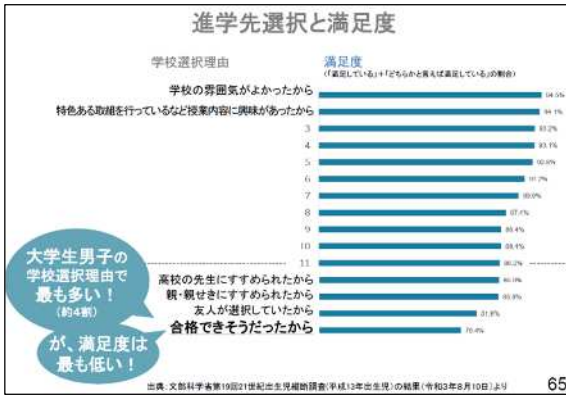
地域は、高校生たちによる積極的な提案や情報発信に期待を寄せています。若い人たちの力でいろいろな気づきをもっと広めていく。これが探究の一例です。いわゆるフィールドワークはその問題への自分の熱量となります。

皆さんも日常の登下校の最中にでもちょっと違う視点から眺めると案外“ここがヘン”が見えてくるはず。2 学期は探究の季節。どんどん深掘りしようではありませんか！

これからのトライ&エラーが受験生活の基本 — “憧れ” は最大の武器 —

武陵祭も終わり、秋の風を肌を感じ始める季節となりました。夢が現実に打ち破られる秋、いやいやそんなことはありません。勝負はこれからです。特に 3 年生の皆さんにとっては受験勉強に向けていよいよ覚悟を決めて取り組まなければなりません。これから 3 月

まで、現役生が最高に伸びる時期です。既に部活動や様々な課外活動で経験してきたとおり、“修羅場を経験する者は強い”のです。模擬試験などで一喜一憂することなく、あくまでそれらをペースメーカーとして活用し、自立的なトライ&エラーを積み重ね、タフでクールな受験生となってください。必ず結果はついてきます。



さて、左のグラフを見てください。進路選択の理由と入学後の満足度の相関です。「合格できそうだったから」という理由で入学した学生の満足度はあまり高くありません。要は、その大学への強いあ

こがれが合格に導いてくれるのだし、入学後の満足度を高めてくれます。また、周囲の声ではなく、自分自身が強い信念を持ち続けることこそが“勝つコツ”でもあります。

その大学が好きで好きでたまらなくなったら、入試問題に対してもリスク感が生まれ、その時あなたはきっと合格に近づいています。“思い”で誰にも負けないでください。

入試で燃え尽きない人とは、どんな人だろうか

東京工業大学の益一哉学長は次のように言っています。

「入学したとき、自分は何をしたいのだろうか、と考える人は伸びます。そもそも入試は一つの基準にすぎません。入学試験の成績と卒業するときの成績には相関がありませんから」。(AERAdot. 2023/05/08)



入試結果と卒業時の成績に相関関係がみられないことは東京理科大学や東北大学、早稲田大学などの調査でも明らかになっているそうです。受験勉強が得意なことと、その後の人生で研究者や技術者として大成することは全く別の話。入試を軽視してよいということではありません。重要なのは何を学ぶかであり、考え続ける意志を持つことなのです。

益学長は「気分を切り替えるには課外活動に打ち込むのもいい」と仰っていて、課外活動は学生にとって活力の源泉でもあり「MIT(マサチューセッツ工科大学 Massachusetts Institute of Technology)」は全米トップレベルの工業系大学だが、あそこの学生は課外活動を平均4つもやっている。平日はひたすら勉強して土日や夏休みに課外活動をしているのだと思うが、それが人間力や人とのネットワークを生み出す。いろいろな人と触れ合うことでインスパイア(刺激)されて勉学にも注力できる。何かうまくいかないことがあっても落ち込まないことにつながる」と指摘しています。

高校生活もかくありがたいものです。特に1・2年生の時にはたくさんの課外活動を経験すべきです。前回話した“アート思考”も幅の広い教科・学問の勉強と同時にたくさんの体験活動がベースとなって導き出されるものです。

武高生に求められるのは、1・2年次の徹底した課外活動にあると私は思っています。

- 【当面の主な予定(9月後半)】
- 16日(土) 土セミ(1・2年) 中止
進研マーク(3年) 延期
 - 19日(火) 月セミ(1・2年)
 - 21日(木) 進路講演(1・2年)
 - 25日(月) 月セミ(1・2年)
 - 26日(火) 防犯等講話
 - 29日(金) 英検
 - 30日(土) 土セミ(1・2年)
全統マーク(3年)

保護者の皆様へ▼このたびの武陵祭の開催に当たりましては温かなご理解とご協力を賜り誠に誠にありがとうございます。▼生徒の皆さんも高い集中力と協働力を発揮し、盛会裏に終えることができました。▼ただこの一連の取組により感染症の流行を招いてしまい、たいへん心苦しく思っているところですが、▼もし、学校祭に関わらず、本校の教育活動に対するご意見やご感想等ありましたら、上記タイトル枠内アドレスから忌憚らないお声をお聞かせください。▼今後ともご支援の程どうぞよろしくお願いたします(下村昌弘)